

発行/ 袋井市議会議員 寺田 守

袋井市久能1810-11 TEL&FAX:0538(44)1351

✉ mamorut@yr.tnc.ne.jp ☞ http://www.mamoru-t.net



平成二十六年

新春

地域の力で

元気なまちづくり

2014年 年頭にあたって



今年、袋井市民にとって楽しみなことの一つに、この秋竣工する新しい袋井駅舎の完成があります。

袋井駅が開業したのは明治22年、この年車窓から袋井の景色を見た正岡子規は「冬枯れの 中に家居や 村一つ」と詠みました。現在と比べれば人家もまばらな淋しいような風景ですが、なぜか人や家庭の温かさが伝わってくるような景色です。

袋井市政も新しい年が始まりました。昨年の出来事の中で最初にあげることと言えば、地域医療の拠点、中東遠総合医療センターが竣工したことでしょう。旧袋井市民病院も聖隷袋井市民病院となり開院しました。市民が安心して暮らすためには、頼りになる医療機関の存在が欠かせません。

防災面では、浅羽南部地域に当市独自の津波避難高台「命山」ができたことでしょう。「命山」はかつて江戸時代、高潮



被害に苦しんだ人達が、命を守るため総出で築いた避難高台です。先人たちの知恵を大切にする、そんな思いが「平成の命山」につながったものと思います。

また去年は、中部学校給食センターが供用を開始し、市内すべての幼稚園、小・中学生に完全給食ができる体制が整いました。この新しい学校給食では、地域の人達が汗水流して

収穫した食材をたくさん食べてもらう、そんな地産地消の思いが込められた施設ともなっています。

市政を見渡した場合、まだまだたくさんの課題が残っており、解決しなくてはならないことも多いと思います。しかし、地域を大切にする、歴史から学ぶということがあれば、着実に前進していくことは可能と思います。

地域の力で、元気なまちづくり、今年一年住みよいまちにするために更に市政を前に進めて行きたいと思います。

袋井宿開設400年記念事業がキックオフ



2年後の2016年は、袋井宿が元和2年(1616年)に開設されてから400年にあたります。これをまちおこしのきっかけにしようとして「袋井宿開設400年記念事業市民実行委員会」が12月21日総合庁舎で設立総会を持ち、事業をスタートさせました。

この事業の成否は、市民の自主的な盛り上がりがいかに期待できるかにかかっています。今回の事業の目的の中でも、人材の育成を掲げ、文化・歴史資源の保全と活用、新たな地域資源の発掘と創造をうたっています。

かつての2001年の東海道開宿400年祭は、



◀13回目のお正月を迎えた「どまん中茶屋」

東海道宿場町全体の取り組みがありました。しかし今回の記念事業は、あくまで市の単独事業です。そういった意味では市の

実力が試される事業でもありますが、

見方を変えれば当市を全国に発信するまたとない機会でもあります。

今回の総会では、市各団体より推薦された15人の市民などが役員に選出され、オール袋井で取り組む態勢が準備されました。



▲200名近くの市民が参加した設立総会(12/21)

「袋井市総合体育館整備構想」発表される



市民体育館の老朽化に伴い新体育館の建設が待たれていますが、11月議会で「袋井市総合体育館整備構想」中間報告が示されました。

この報告によれば、「スポーツの力で、人が、まちが、元気になる！」を合言葉に、基本コンセプトでは「誰もが、いつでも、利用しやすいスポーツ文化推進拠点」と定めています。

施設の内容では、メインアリーナとサブアリーナの2施設が中心となり、トレーニング室、多目的室(大会議場)、武道館、ランニング及びウォーキングコース、キッズルームなどを備えられています。共用部にはラウンジスペース、災害備蓄スパー

スなどが設けられ、約500台の駐車スペースが示されています。

これらを総合すると建設用地の面積は35,000㎡~40,000㎡、事業費約35億円、工期は平成28年度の完成となっています。

建設候補地としては、多く市民が利用しやすい場所で交通の利便性が高いところ、用地の確保が可能であり、災害の受けにくい立地という観点から、4つの候補地(①聖隷袋井市民病院西側②パイオニア(株)駐車場③第一三共(株)跡地④国1バイパス久能IC北側)が上がっています。決定は、来る2月議会で示されることになっています。

